

紹介

● 日本史の研究 文學博士 三浦周行著

著者三浦博士が過去三十年間の日本史に關する研究成果にして、其既に専門雜誌等を通じて學界に問へるもの、或は筐底に藏せるもの、中、さきに「歴史人物」「法制史の研究」に收め、近き將來に公刊さる、「續法制史の研究」に收めらるべき諸篇を除いた大小七十三篇を、文化批判、人物批判、對外關係、歴史地理、史料研究の五編に輯收し、更に各編毎に數章に類別したものが本書である。菊判千三百五十六頁云ふ尠大なものであつて其内容を一々紹介する事は到底不可能であるが、其中に於て「南北合體條件」「文藝復興期の儒風」「徳川氏の豊臣氏財政攪亂策」「片桐且元」「朝山意林庵」「天龍寺船」「應永の外寇」「後三年役」の諸篇の如きは、或は從來全く不明の裡に埋れし史實を闡明し、或は全然誤り傳へられた史實を究明して以て史界の一明星となつたものであるし、「土一揆」「鎌倉時代の朝幕關係」「中世都市の發達」の如

きは、其巨大なる史眼によりて無盡藏にも思はる、著者選中の史料を縱横自在に活用された結晶であらう。或は「長崎開港始末」「堺港」「小濱港」「兵庫港」の如きは、零細なる史料によりて、此等港灣の變遷を論究されたのみならず、我國文化の由來と港灣の關係にも言及されたものであり、「明治時代の文化」「國史上の革命思想」「明治維新成敗の跡を顧みて」の如きは炬の如き史眼によりて史實に對して嚴正なる批判を下されたものである。其取扱はれた問題は、政治、財政、軍事、人物、外交は勿論、宗教、思想、信仰、一般の文化にも及び、社會の諸相を其對象とし、一に正確なる史料により、事實の精粹を捉へ來りて鐵案を下されたるものであつて、所謂一般の文化史とは其根柢に於て相違したるある威大なものがあらう(岩波書店發行、定價八、五〇)。

● ズーフと日本 文學博士 齋藤阿具著

幕末外交上、波瀾の續々發生した時に、長崎の和蘭商館長として多年我國にあつて頗る我國情に通じたヘンドリック・ズーフを中心として、ズーフ渡來以前の和蘭通商の

狀況より筆を起し、ゾーフの館務整理の有様や、露國使節の渡來に際してゾーフが日露交渉事件には關係せずミ決心した事や、英人に島蘭館を譲渡さんとする計畫のあつたときゾーフは之が引渡を拒絶した事等、當時出島を中心とした英蘭兩國間の關係交渉を闡明し、海外貿易史の裏面を論究し、加ふるにゾーフの人物を縦横に論評し、少壯氣鋭の奇才を認めたものであつて、ゾーフ肖像、ゾーフ贊の富嶽圖、出島蘭館圖以下九葉の何れも稀觀の圖版を挿入して居る。此邊の事情に關しては、我國の史料甚だ乏しく、事件によりては全く史料を闕如して居るものであるが、本書は著者が親しく海牙府の國立古文書館、英國印度省書庫を探り、或はゾーフの遺族を訪ねて世人未知の材料を得たるを基礎として攷究されたものであつて、日蘭關係史上必讀のものであると信じる。(東京廣文館發行、定價、二、五〇)

●京都史蹟勝地調查報告

第三冊

大正九年四月以降大正十年三月に至る間に於て、魚澄梅原兩委員の實地調査にかゝる京都市、愛宕郡、葛野郡

乙訓郡、久世郡、綴喜郡、相樂郡、南桑田郡、北桑田郡、船井郡、何鹿郡、天田郡、熊野郡の一市十二郡に亙る史蹟勝地二十七箇所の調査報告を載せ、四十一葉の圖版ミ多數の挿繪を併せ收めたるものなり。其中、魚澄委員の手になりし、八坂法觀寺、等持寺址、船岡山城址、淀城址、篠村八幡宮、細野村春日神社、梅原委員の手になりし大住村車塚古墳、修學院村平安宮所用瓦葺址、太秦村天塚及び清水山の古墳、西中筋村石劍發見の遺跡、大枝村妙見山古墳の調査等は、委員の最も力を盡せる項目たるべし。就中等持寺の遺址を明示したるが如き、大枝村妙見山古墳の構造年代も應神仁德を降れる時期ミ推定したるが如きは最も注目に値すべきものたるべきか。(京都府發行、非賣品)(以上中村)

●滿鮮地理及歷史研究報告 第九

南滿洲鐵道會社の提供に基き滿鮮の地理歴史を研究したる東京帝國大學文學部の報告の第九にして十一年五月の刊行に係る。『三國史記高句麗紀の批判』(津田左右吉)は右高句麗紀の記事中、支那史籍より材料を取らざる部